

経済学部

適地適学

経済学部長 前川 功一

新入生諸君、入学おめでとう。諸君は、東広島キャンパスの昼間コースと、広島市内の東千田キャンパスの夜間主コースに分かれて、四年間の課程を修めることになるが、卒業時点では両コースともに同一の卒業証書が授与される。どちらのキャンパスで学ぶ経済学も基本的には同じである。

しかし、夜間主コースには勤労学生や社会人学生など、多様な学生が集まってくる点が、昼間コースとは異なっている。また、東千田と東広島という対照的な立地条件の違いもあるので、教育内容もわずと微妙な違いがある。一口で言えば、東千田での教育は東広島での教育に比べて、いくぶん実務的、実践的な科目が多く用意されている。

例えば、今年度は広島市内の企業の第一線で働いておられる方々をお招きし、夜間主コースのために、現場の経験を踏まえた講義をしていただく予定である。これに対して、昼間コースでは、社会経験を持たない若い学生が多いことを考慮して、どちらかと言えば経済学の基礎教育に重点が置かれている。

このように、それぞれのキャンパスの特徴を生かした教育が行われている。とは言え、夜間主コースの諸君の中には昼



間コースの講義も受講したいと思う学生もいるであろう。そうした要望に応えるために、夜間主コースの学生は、昼間コースの講義を四十単位まで受講できるようになっている。逆に昼間コースの学生も、東千田で開講される夜間主コース用の夕方開講講義の一部を聴講できる。また一部の講義は、双方向テレビによって相手キャンパスに放送されるので、居ながらにして別地のキャンパスの講義を受講することも可能である。

キャンパスが離れているので教官との接触が難しい、という問題があるのは事実だが、これも電子メール等を用いればある程度は解決できるのではないだろうか。経済学部生にとって、これからは、マルチメディアは単なるファッションではなく、よりよく学ぶための必要不可欠な道具である。

諸君には、上に述べた二つのキャンパスの特徴を生かした学び方を工夫してもらいたい。本文のタイトルの「適地適学」とはそういう意味である(ただし辞書にはない。私の造語である)。ぜひ経済学部ならではの適地適学の利点を生かして、しっかり勉学に励み、悔いのない四年間を送って欲しい。

(まえかわ・こういち)



豊かな人間に

経済学部学生 有馬 大輔

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。大学生活を有意義に送るために、少しアドバイスをします。大学生活で大切なことは「自主性」です。自ら行動し、自分で生活をコントロールすることが必要になってきます。

高校も義務教育ではありませんが、今の高校ではあまり自主性というものは要求されていません。大学生に強く要求されるのがこの自主性です。

広島大学とりわけ経済学部は、わりと自由な時間を持つことができます。その時間をどう使うかで、大学生活を有意義にするか決まってきます。これは勉強ばかりをしなさいというのはなく、勉強はもちろん大切ですが、友人をつくったり、恋愛をしたり、学校や地域の行事や他に大切なことにも積極的に取り組んで、バランスのとれた生活を送って、豊かな人格を形成することが大切です。

皆さんが、この広島大学で人間として大きく成長して卒業できるよう期待しています。(ありま・だいすけ)